

28:16 しかし、十一人の弟子たちは、ガリラヤに行って、イエスの指示された山に登った。

28:17 そして、イエスにお会いしたとき、彼らは礼拝した。しかし、ある者は疑った。

28:18 イエスは近づいて来て、彼らにこう言われた。「わたしには天においても、地においても、いっさいの権威が与えられています。

28:19 それゆえ、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。そして、父、子、聖霊の御名によってバプテスマを受け、

28:20 また、わたしがあなたがたに命じておいたすべてのことを守るように、彼らを教えなさい。見よ。わたしは、世の終わりまで、いつも、あなたがたとともにいます。」

はじめに

OIC での最後 2 回のメッセージでこの箇所を語るように、私は明確に導かれました。

イスラエルの民に対する神の目的については十分お話しましたので、これまでにご紹介した聖書箇所に基づいて、皆さんが各々お考えください。

ある著名な聖書注解者は、今日の聖書箇所について次のように語りました。

「クリスチャンがマタイの福音書全体を理解しても、この最後の部分を理解できなければ、この書全体の主旨を見落としたことになる。」

私もこの学者と同じ意見です。というのも、すべてのクリスチャンに課された課題という意味では、この箇所が新約聖書全体の核心部分だと言えるからです。

OIC の教会員の皆さんにアンケートをして、OIC で自分がもっとも重要だと思うことを挙げてください、と尋ねたら、おそらく次に挙げる 3 つの答えが大半を占めるでしょう。

1. 交わり

私も、ここ OIC の交わりが大好きです。皆さん親しみやすく、優しい人ですし、英語で交わられます。年齢や国籍もさまざまです。

信条や価値観の似た人と交われるチャンスがあります。

交わりを挙げる人は、ヨハネ 13 : 35 のみことばが好きな人でしょうか。

ヨハネ 13 : 35

13:35 もし互いの間に愛があるなら、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、すべての人が認めるのです。」

交わりを重視するのは素晴らしいことです。

信徒同士で分かち合い、励まし合い、実用的な手助けをするために大切です。

2. 明確なみことばの教え

みことばを大切に多くの人のため、OIC に来る最大の理由は、神のみことばが妥協なく忠実に明確に語られていることでしょう。

これは非常に重要です。神のみことばが正しく教えられると、たましいが養われるからです。神のみことばが間違っていると、たましいは養われません。ですから、多くの人のため、毎日曜日にみことばが明確に講解されていることが、その教会に通う一番の決め手となります。

テモテ第二 3 : 16

3:16 聖書はすべて、神の靈感によるもので、教えと戒めと矯正と義の訓練とのために有益です。

これは、私たちのたましいにとって、励ましにも呼びかけにもなります。

神がみことばから語られると、心地よいことばかりではありません。
生き方の中でみことばを实践し、成長するよう促されるからです。

3. 賛美音楽や礼拝のスタイル

クリスチャンの間でも、好きな音楽の種類、礼拝のスタイル、使用する楽器は違います。
昔訪れた北スコットランドのとある教派では、楽器を一切使いません。

座ったまま、前に立つ人のリードで詩篇を歌います。それから立って祈るのです。

皆さんは驚かれるかもしれませんが、クリスチャンの中には、賛美音楽や礼拝スタイルが行く教会を決めるうえでもっとも重要な点だという人もいます。

ここ OIC は、保守派コンテンポラリーと表現されるでしょう。

この教会には才能豊かな賛美奉仕者がたくさんいて、99%の確立で私のメッセージにぴったりの曲を選んでくれます。

実際、私はこの5年間で一度も日曜礼拝の賛美がお粗末だと感じたことはありません。

限られた選択肢の中で、賛美チームはいつも適切な選曲をしてくれます。これはおもに、祈りと、準備と、メッセージの内容に関する知識とのおかげです。

ある人たちにとっては、音楽が一番大切で、他のことはそれほど気にしません。

この3つの要素は聖書の教えに基づくもので、すべての信徒の生活の一部であるべきです。

しかし、そのどれも世の中にある教会の目的と使命の中心部分ではありません。

ですから、OICの教会員全員にとって、OICが存在する一番の目的を見いだすために、これら以上に必要とされるものがあります。

交わり、礼拝、そして神のみことばを聞くことから湧き出る働きが、私たちの一番の目的となるべきです。

すべてのクリスチャンにとっての一番の目的は、神に栄光を帰することです。

そして、神に栄光を帰する最高の方法として神が選ばれたのが、罪深い人間の贖いです。

神のご計画に私たち信徒が参加することによって、神に最高の誉れをもたらすことができます。

コリント第二 5 : 19

5:19 すなわち、神は、キリストにあって、この世をご自分と和解させ、違反行為の責めを人々に負わせないで、和解のことばを私たちにゆだねられたのです。

その御業のあまりの素晴らしさに、御業がなされたことに御使いが驚いたほどです。

ペテロ第一 1 : 2

1:2 父なる神の予知に従い、御霊の聖めによって、イエス・キリストに従うように、またその血の注ぎかけを受けるように選ばれた人々へ。どうか、恵みと平安が、あなたがたの上にありますように豊かにされますように。

旧約聖書を学ぶと、神がアブラハムとその子孫を選ばれたもともとの目的は、諸国民の間で神を証することだったとわかります。

歴代誌第一 16 : 23-24

16:23 全地よ。【主】に歌え。日から日へと、御救いの良い知らせを告げよ。

16:24 主の栄光を国々の中で語り告げよ。その奇しいみわざを、すべての国々の民の中で。

イザヤ書 49 : 6

49:6 主は仰せられる。「ただ、あなたがわたしのしもべとなって、ヤコブの諸部族を立たせ、イスラエルのとどめられている者たちを帰らせるだけではない。わたしはあなたを諸国の民の光とし、地の果てにまでわたしの救いをもたらす者とする。」

誰一人滅びることは決して神のみこころではありません。神のみこころはすべての人が悔い改めに至ることです。

ペテロ第二 3:9

3:9 主は、ある人たちがおそいと思っているように、その約束のことを遅らせておられるのではありません。かえって、あなたがたに対して忍耐深くあられるのであって、ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。

神は、すべての人が救われて、真理を知るようになることを望まれます。

テモテ第一 2:4

2:4 神は、すべての人が救われて、真理を知るようになるのを望んでおられます。

ですから、神に栄光を帰し、神の至高のみこころと目的を大切にしたいと望むクリスチャンは皆、失われたこの世に対する神の愛を持たなくてはなりません。また、罪人のたましいをイエス・キリストのものとして勝ち取るイエスの働きに加わる必要があります。これは、弟子たちのための最後の祈りでイエスが祈られた内容です。

ヨハネ 17:3-4

17:3 その永遠のいのちとは、彼らが唯一のまことの神であるあなたと、あなたの遣わされたイエス・キリストとを知ることです。

17:4 あなたがわたしに行わせるためにお与えになったわざを、わたしは成し遂げて、地上であなたの栄光を現しました。

OIC の働きは、イエスの働きを広げるものです。

使徒 1:1

1:1 テオピロよ。私は前の書で、イエスが行い始め、教え始められたすべてのことについて書き、

イエスは福音書に記された働きを始められたが、使徒の働きに記されたとおり、その働きを継続された、とルカは語ります。

ヨハネ 17:8

17:8 それは、あなたがわたしに下さったみことばを、わたしが彼らに与えたからです。彼らはそれを受け入れ、わたしがあなたから出て来たことを確かに知り、また、あなたがわたしを遣わされたことを信じました。

信徒に対する神の一番の目的が交わりを楽しむことなら、神はすぐに私たちを天国に連れて行ってくださるでしょう。

信徒に対する神の一番の目的がみことばの学びなら、神は救われてすぐに私たちを天国に連れて行ってくださるでしょう。天国は、神のみことばを完璧に知って理解することができる場所です。信徒に対する神の一番の目的が神に賛美をささげることなら、神はすぐに私たちを天国に連れて行ってくださるでしょう。天国では、完璧で永遠に続く賛美がささげられているからです。神の教会がこの世にとどまることを神がよしとされる唯一の理由は、失われたたましいを探して救うためです。

ヨハネ 20:21

20:21 イエスはもう一度、彼らに言われた。「平安があなたがたにあるように。父がわたしを遣わしたように、わたしもあなたがたを遣わします。」

こういうわけで、この OIC にいる私たちは、イエスがお与えになった大宣教命令を真剣に受け止める必要があります。

これは、マタイによって記録されたイエスの最後のメッセージであり、このことばで福音書が締めくくられています。

ですから、私にとっても、このイエスのことばをもって OIC での私の働きを締めくくることがよいと思いました。

今日と来週の 2 回の説教で、5 つの要素を学びます。これらを正しく理解し、OIC の教会員全員が実践するならば、教会に大きな祝福という結果がもたらされるでしょう。また、皆さんひとりひとりにとっても、神の導かれるところで大きな成果をあげられるでしょう。

この 5 つの要素とは、神に自らを差し出すこと、礼拝、明け渡し、従順、そして、力です。今日は、ひとつめの要素を学ぶ時間しかありませんが、来週にその他 4 つを学びます。

1. 神に自らを差し出すこと (マタイ 28 : 16)

マタイ 26 : 32 に戻って、なぜ弟子たちがガリラヤに集まったのかを知る必要があります。

マタイ 28 : 16 で、イエスは弟子たちに具体的な山の名まえを告げられたはずですが。

おそらく、マタイ 5-7 章でイエスが教えられた山だった可能性が高いでしょう。

そこは実際には山というよりは広い丘です。ガリラヤに行ったことのある人なら、そこも訪れたでしょう。

イエスが現れたという最後の記録は、復活して 8 日後です。(ヨハネ 20 : 26)

当時、エルサレムからガリラヤへ行くには約 1 週間かかりました。

ヨハネ 21 : 1-17 を読むと、弟子たちがガリラヤに到着すると、そこでイエスが弟子たちに再び姿を現されたとあります。

このとき、ペテロはイエスに仕え、民を教えるという 3 度にわたる約束によって、イエスとの和解を果たしました。

ですから、控えめに見積もって、大宣教命令はイエスがよみがえられてから 20-35 日後に与えられたとすることができます。

イエスのおられた場所にいっしょにいたのは 11 人の弟子たちだけではなかったでしょう。ただ、確かなのは 11 人の弟子たちがそこにいたことです。

場所はそれほど重要ではありませんが、重要なのは、弟子たちがこの場所まで頑張って行ったことです。

「漁で忙しい」とか「家族の用事で忙しい」と言うこともできたでしょう。

しかし、彼らは自分の予定以上に、イエスから指導していただくことを優先しました。

大宣教命令の呼びかけに加わるために、すべてのクリスチャンが一番にすべきことは、神のご計画に自分の人生を明け渡すことです。

言い換えるなら、私がどこで大宣教命令の呼びかけに応じて仕えることを神は望んでおられるのだろう、と考えることです。

たましいを勝ち取る神のご計画に、一匹狼の弟子はいません。

その理由は、たましいを勝ち取る真の働きは、私たちを通して働かれる聖霊に依存しているからです。

たましいを勝ち取るのに必要なのは、能力ではありません。必要なのは、私たちが神に自らを差し出すことです。

私たちはイエスのためにたましいを勝ち取ることができるよう、自らをイエスに明け渡す必要があります。

当たり前のようで、多くのクリスチャンが気づかないことです。

イザヤ書にはその一例が記されています。イザヤは神の偉大な預言者でした。彼は、旧約聖書でも一番長い預言書を書いた人です。

イザヤ書 6 : 1-8

6:1 ウジヤ王が死んだ年に、私は、高くあげられた王座に座しておられる主を見た。そのすそは神殿に満ち、

6:2 セラフィムがその上に立っていた。彼らはそれぞれ六つの翼があり、おのおのその二つで顔をおおい、二つで両足をおおい、二つで飛んでおり、

6:3 互いに呼びかわして言っていた。「聖なる、聖なる、聖なる、万軍の【主】。その栄光は全地に満ち。」

6:4 その叫ぶ者の声のために、敷居の基はゆるぎ、宮は煙で満たされた。

6:5 そこで、私は言った。「ああ。私は、もうだめだ。私はくちびるの汚れた者で、くちびるの汚れた民の間に住んでいる。しかも万軍の【主】である王を、この目を見たのだから。」

6:6 すると、私のもとに、セラフィムのひとりが飛んで来たが、その手には、祭壇の上から火ばさみで取った燃えさかる炭があった。

6:7 彼は、私の口に触れて言った。「見よ。これがあなたのくちびるに触れたので、あなたの不義は取り去られ、あなたの罪も贖われた。」

6:8 私は、「だれを遣わそう。だれが、われわれのために行くだろう」と言っておられる主の声を聞いたので、言った。「ここに、私がおります。私を遣わしてください。」

イザヤは神と出会い、自らの罪深さをまざまざと知らされました。そして、神によってきよめられ、神に仕えるために自らを明け渡しました。

これは、大宣教命令を真剣に受け止めるすべての信徒の踏むべき通常の過程です。

パウロは常に、イエスに用いられるために、きよめられ聖霊に満たされるよう、自らを明け渡しました。

コリント第二 7 : 1

7:1 愛する者たち。私たちはこのような約束を与えられているのですから、いっさいの霊肉の汚れから自分をきよめ、神を恐れかしこんで聖きを全うしようではありませんか。

イエスのために給仕の奉仕をしていた人でも、きよめられ、聖霊に満たされていなくてはなりませんでした。

使徒 6 : 3

6:3 そこで、兄弟たち。あなたがたの中から、御霊と知恵とに満ちた、評判の良い人たち七人を選びなさい。私たちはその人たちをこの仕事に当たらせることにします。

今からお話するのは、実際あったお話です。失われたたましいを救う働きのためにイエスに用いていただくにはイエスに自らを明け渡すことがどれほど大切かを教えてください。

この話は、カート・コック著「ズールー族の中におられる神」という本に記されています。

原書はドイツ語ですが、英語に翻訳されています。

南アフリカ人の伝道者が全国各地で伝道大会を開いていました。

大会では多くの人が前に進み出て、救いについて教えを受けました。

彼らはクリスチャンになったようでした。

伝道者はしばらくして、新しく救われた信徒たちが信仰をはぐくめているか確認しようと、各地を再び訪れました。

すると悲しいことに、全員がもとの生活に戻っていて、教会には来ていませんでした。

伝道者は山に登って 3 日間断食し、祈って、神と語りました。

そして、問題を突き止めたのです。

問題は、伝道者自身でした。

彼は、イエスに自らを明け渡しておらず、聖霊にも満たされていませんでした。

人々は、彼のメッセージを聞いて、イエスを信じようと彼に説得されたのです。

しかし、それはうまくいきませんでした。人々が聖霊によって新生していなかったからです。

この伝道者は、説得力のある話法で大々的に働きをしていました。
しかし、神に自らを明け渡し、聖霊に満たされた彼が、ズールー族の地に戻ると、大きなリバイバルが起きました。
人々は心から新生し、癒やされる人や、死からよみがえった人までいました。
このリバイバルの話はあまりに驚くべき内容で、カート・コックが自ら調査し自著に記さなければ、信じてもらえなかったでしょう。
この話を皆さんにお伝えしたのは、イエスの弟子として、大宣教命令に従うために第一階段がどれほど重要かを強調するためです。
約 37 年前、私たち夫婦はイエスに人生を完全に明け渡しました。そして、スコットランドのエジンバラにあるフェイスミッション・バイブルカレッジで神に仕える訓練を受けるよう、神がはっきりと召してくださいました。
しかし、イエスに自らを完全に明け渡し、きよめられ、聖霊によって満たされることの重要性についてしっかりと気づいたのは、「ズールー族の中におられる神」というこの本を読み、コリン・ペッカム博士のもとで聖書を学んでからのことです。
私たち夫婦は、約 35 年間、イエスに仕えてきましたが、すべての始まりは、イエスに完全に自らを差し出したことです。
主に明け渡そうとするのが第一階段です。私たちがどこで何をすることをイエスが求めておられるにしても、そのために自らを差し出すのです。
イエスを信じる皆さん、大宣教命令に従う第一歩を踏み出しませんか。
最初の第一歩を踏み出すのは簡単ではありません。けれども、イエスに用いてもらいたいなら、賜物や才能が何であれ、不可欠なステップです。

祈りましょう。